

■令和 8 年度第 1 回鹿嶋市総合計画審議会 議事録

令和 8 年 8 月 5 日（水）15:00～16:45

鹿嶋市役所 3 階 会議室 305

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
4. その他
5. 閉会

○会長

本日の出席状況ですが、委員 12 名のうち、9 名が出席ですので、審議会規則第 5 条第 3 項の規定により、本会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、1 つ目の議事である「総合計画及び総合戦略における指標及び KPI 進捗状況について」、事務局から説明を求めます。

— 議案 1 事務局説明 —

○委員

資料 1, 4 中、農業振興事業の指標に認定農業者数の人数、2026 年 3 月末で 1,005 人、K P I で 141 人となっているが、この目標値の根拠と、具体の説明の中で、認定農業者の支援とあるが具体的な支援の内容について教えてください。

○事務局（経済振興部長）

認定農業者数については、現総合戦略の策定時の認定農業者の現状から目標値としたもの。今現在 105 人で目標値が 141 人となっているが、先程の説明にもあった通り、高齢化やその他の要因により、個人・法人を合わせた認定農業者数は近年、新規就農者数を廃業者が上回っていることから、指標の見直しが必要だと認識しています。今般の総合戦略の見直しに当たっては、新規就農者数や耕作放棄地等の解消の面積、中間管理機構を通じた農地の集約面積等を指標として考えているところです。

就農者への支援としましては、市の 3 年間、各年 150 万円の支援、その後、認定農業者になった場合には、認定農業者だけが申請できる国県の補助金等があります。認定農業者に対する市独自の補助は現状では具体のものは無く、今後の課題として認識しているところです。

○委員

回答ありがとうございます。新規就農者は、とりわけ土地の取得、機械の購入で大変苦

労するケースが多く、そのあたりで市独自のサポート、補助などをご検討いただきたいと思います。

○会長

他にございませんでしょうか。

— 質問なし —

○会長

ないようですので、続きまして2つ目の議事「鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について」、事務局から説明を求めます。

— 議案2 事務局説明 —

○委員

地域経営レポートやその他の資料を基に説明を受けた率直な感想として、人口減少や構造の変化によって、本当に大変な局面に突入していくのだなと少し心配な気持ちになりました。これからの準備期間である5年間でどう過ごしていくのかということに対して、本当に真摯に向き合っていかなければならないと痛感しました。

将来の戦略での「積極戦略」については、大きく期待する部分と、本当にGXや洋上風力が実現できるのかという不安もあります。GXや洋上風力等の部分で現状で取組んでいるものがあれば進捗状況を教えてください。

○事務局（政策推進課長）

人口減少という問題は、全国的な課題ではありますが、そのような中でも鹿嶋市は鹿島港やアントラーズ、神宮といった資源に恵まれた地域であり、これらを活用・連携していけるという部分で恵まれた自治体であると言えます。

市長を筆頭に、洋上風力発電を推進しているところでありますし、大前提として既存産業の維持向上、基幹産業の製鉄業が本市で操業を続けられる地域を作ることが大前提となります。本市が国内の拠点として選ばれ、残り続けるためには、洋上風力を核とした電力と水素を安定して供給し、企業はクリーンな環境で製品を作ることができる。このサイクルが国内の拠点間の競争を勝ち抜くカギになるものと考え、これに基づき戦略を策定してまいります。

○委員

鹿島アントラーズでは、2033年を目標に新スタジアムを整備することを発表したところです。スタジアムの規模自体は現在よりも少し小さくなりますが、クラブ側の新スタジアムにおいて収入・収益を上げていくビジョンの中で、いわゆる高付加価値の観戦エリアを

増やして収益を上げていく中で、それに見合う運営の人材をいかに確保していくかという点で、非常に難しい局面になったなと感じています。現状の試合運営においても、学生ボランティアを大学まで送迎して確保するなど、様々な方策を講じているところですが、今後は生産人口の更なる減少を見据え、クラブとしてもA I の活用、D X の導入をはじめとしたオートメーション化が必要な要素であると認識しています。また、それと同時に、鹿嶋市だけでなく、近隣自治体を含めて、広域的な取組みでクラブを支えていく生産人口を確保していくことが必要だと考えています。感想ですので回答は不要です。

○委員

資料7のP10の図において、教育の分野における行政需要が今後「増加」と読み取れるが、人口減少で子どもの数が減っていく状況下での「需要増」というのはどういう理由から導かれたのか。

○事務局（政策推進課長）

資料中の図は、行政需要全体では需要増となることを表しているもの。ご指摘のとおり、教育の分野単体では、施設の統廃合等の新たな需要が予想されるものの、需要増とはならないため誤解を招かないよう図の修正を検討します。

○委員

福祉の分野では、なり手不足の問題が深刻。福祉分野の学部がある大学生ですら、新卒ですぐに社会福祉施設に就職する方は少ない。福祉施設の代表として、県内の就職説明会に出向き、担い手の確保に務めているものの、県内でも鹿行地区は特に人気がない。これに輪をかけて人口減少や生産人口の減少が加わるとなると、事態はいよいよ深刻です。福祉の担い手となる人材が鹿行や鹿嶋市で就職を希望する、選ばれるような地域を作るという意味でも、鹿嶋市にはアントラーズや企業誘致を通じた地域の賑わい、価値の向上に繋がるような施策に大いに期待するところです。福祉の分野においても、特色ある施設づくりに取組み、地域福祉の維持に取り組んでまいります。回答は不要です。

○会長

他にございませんでしょうか。

— 質問なし —

○会長

それでは、最後に「その他」についてですが、事務局から何かございませんでしょうか。

— 事務局報告（次回開催予定 令和8年11月） —

○会長

では、審議会全体を通して、委員の皆様から何かございませんでしょうか。

— 質問なし —

○会長

では、以上を持ちまして、本日の議事は全て終了いたしました。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

○事務局

長時間にわたりまして、議事進行誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和8年度第1回鹿嶋市総合計画審議会を終了とさせていただきます。誠に疲れ様でした。ありがとうございました。